

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
中区文化のつどい事業		中区ふれあい事業推進委員会(中区文化のつどい実行委員会)			
事業目的	事業内容	活動指標	R4	R5	R6
文化サークルの発表の場を通して、地域コミュニティの活性化を図るとともに、行政と地域が協働して文化芸術を振興することにより、文化に親しみ、文化を大切にす地域社会の実現を目的とする。	演技の部:ソフィア・堺 ホールでのステージ発表 展示の部:ソフィア・堺 ギャラリーでの作品展示	参加サークルの増加	演技27サークル 展示6サークル	演技28サークル 展示7サークル	演技30サークル 展示7サークル
		参加者満足度の向上 (アンケート調査)	100% 対象29サークル(学校除く) 中29サークルが『満足』、 『やや満足』と回答	100% 対象31サークル(学校除く) 中31サークルが『満足』、 『やや満足』と回答	87% 対象33サークル(学校除く) 中29サークルが『満足』、 『やや満足』と回答
①妥当性	②協働の視点	③インパクト		④効率性	
◎ 中区で活動する文化サークルにとって貴重な発表の機会であり、サークル間の交流を通じて地域コミュニティの活性化や伝統文化の継承にも寄与している。また、行政と地域が共催することで、公平性と地域主体の運営が両立されており、事業の妥当性は高い。	◎ 参加サークルで構成される実行委員会が企画内容を話し合い、当日の運営も行政と参加サークルが協力して行っている。地域の団体が主体的に関わりながら、行政と役割を分担して進めており、地域と行政が力を合わせて取り組んでいる点から協働の度合いは高い。	△	本事業は、区民の日常的な文化活動を中心に地域文化の振興や住民交流に寄与しているが、住民間の文化交流の色合いが強く、広報は区の広報紙や自治会掲示板などに限られるため、対外的なPR効果は限定的である。		○ 参加サークルから費用を徴収することで公金以外の収入を確保し、運営面でも行政と参加サークルが連携して役割を分担することで、経費削減に努めている。限られた予算の中でコストを意識しながら実施されており、効率的な運営が図られている。
⑤自立発展性	総合評価				
△ 長年にわたり地域住民の主体的な関与によって継続されてきたが、近年は参加サークルの高齢化により実行委員の担い手が減少しており、事業のすべてを住民のみで自立的に運営することは困難な状況にある。今後の継続に向けては、若い世代の参画を促進し、運営体制の見直しや支援の在り方を検討することが求められる。	○ 本事業は、地域文化の振興と住民交流に貢献する意義ある事業であり、行政と地域の連携により円滑に開催されている。一方で、若い世代の参画促進や、ステージ進行・体験コーナーの運営改善など、参加者の満足度を高める工夫が今後の継続的な実施に向けて重要となる。				
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	住民同士の親睦を深める場として、地域コミュニティの活性化を図るために継続して実施する。参加者アンケートの結果を参考し、次年度の運営の参考とする。				